



J R 東日本輸送サービス労働組合
東京総合車両センター支部

2021. 8. 16 No. 4

新型コロナウイルス感染症についての支部声明

8月13日、東京都では「新型コロナウイルス感染症」の新規感染者が5773名を確認し、全国では20365名と過去最多を更新した。病床は逼迫し、入院できず自宅療養や入院の待機をせざるを得ない感染者が増え続けている。そして自宅療養中に亡くなるというニュースも流れている。まさに医療崩壊をおこしているのが現実である。

ところでJR東日本会社そして東京総合車両センターの現実はどうなっているのか。

乗務員や営業職場、更に東京総合車両センターでも派出社員は職域接種を行っている。理由はお客様と接する、或いは交代制だからというものである。そして東京総合車両センター内で働く社員の職域接種については未だ分からないのが現実である。しかし考えてみれば東京総合車両センター内で働く社員にも家族がいる。そしてその家族は一度外に出てJRを使えばお客様である。私たちが仕事を終えて家に帰ればお客様でもある家族と接することになる。という事は職域接種の考え方そのものに問題がある。東京支社危機管理本部指示には「業務に支障がなければ極力テレワーク、自宅待機を行う」と明記されている。そしてワクチン接種に関しての本社の指示には「原則勤務時間外で接種する。日勤勤務者で勤務時間外に接種することができない場合は接種に必要な時間については免除できる」と書かれている。

しかし会社の主張は

- ①やることがないからテレワークにはならない。成果物が必要である。
- ②自宅待機は基本的に認めない。
- ③基本は年休や土日を使っての接種とする。
- ④年休が少ないから免除、多いから免除にならないという事ではない。

となっている。更にテレワークやワクチン接種に関して各科での取り扱いの違いがあるのが現状である。本社がワクチン接種に関して免除を認めているのにも関わらず原則での対応を繰り返している。土日はワクチン接種の予約枠がすぐに埋まってしまいう現実のなか、年休の少ない社員は中々接種が出来ない状況が続いている。先日も東京総合車両センター内で「新型コロナウイルス感染症」陽性者が確認された。今必要なのは誰もがワクチン接種をしやすい環境作りと、感染しないために出勤率を下げることであり、社員の安全を守るのが会社の役目である。そして今まで経験したことのない難局を乗り越えるために労使間の議論と社員の意見に耳を傾けることが極めて重要である。私たち輸送サービス労組は安全で安心して働ける職場を創り出すためにこれからもたたかい抜いていく。

以 上

2021年8月16日
JR 東日本輸送サービス労働組合
東京地方本部
東京総合車両センター支部